

第9回 みたけ創生有識者会議 会議録

■日時 令和元年11月13日(水)9時55分～11時55分

■場所 御嵩町役場本庁舎2階 第1委員会室

■出席者 黒田委員(東海化成工業(株))、小林座長(岐阜大学大学院)、
齊藤委員(学校法人荻須学園)、重政委員(御嵩町金融協会((株)十六銀行))、
永谷委員(ながたに農園)、水内委員(名古屋芸術大学)

伊左次総務部長、長屋企画調整担当参事、山田企画課長、丹羽企画調整係長、
玉川企画調整係員、渡辺環境モデル都市推進室副室長、伊納農業振興係長

■欠席者 尾石委員((株)ケーブルテレビ可児)、坂口委員(岐阜県可茂県事務所)

■会議進行(10時10分～11時50分)

○山田課長

ただいまから第9回みたけ創生有識者会議を開催いたします。本日はケーブルテレビ可児の尾石委員、また、可茂県事務所の坂口委員が欠席であり、6名での会議開催となりますので、よろしくお願いいたします。

開会にあたり、総務部長の伊左次よりごあいさつ申し上げます。

○伊左次部長

おはようございます。お忙しい時期にお集まりいただきありがとうございます。

さて、総合戦略の5年間の節目ということで、次期の総合戦略の策定に向けて動いているところでございます。しかし、なかなか町民の方にはあまり広まっていないのかなという危惧も否めないところでございます。そんな中で、町長をはじめ町の幹部の方では、どういふうに、環境モデル都市であることや、総合戦略を周知するかというところが大きな課題であるというところで宿題をいただいているところでございます。

本日につきましては、第2期の総合戦略に向けて、アンケート等を実施させていただきました。その報告もさせていただきながら、次期戦略に向けて進んでいきたいと思っております。

総合戦略などでまちを元気にしていくということでいろいろ旗を振っているわけではあります。我々行政マンの方では気づいていない部分が多々あるのではないかと思います。ぜひ、厳しいご意見で結構でございますので、忌憚のないご意見をいただければありがたいと思っております。

そんな中で、御嵩町ではグリーンテクノという工業団地にいろいろな企業さんに来ていただいております。これも町長からの宿題ではございますが、なぜ御嵩だったのかというところを、懇談的な中でご意見をいただくという場をセッティングするよう検討し始めたというところでございます。

とにかく外からの意見を多く取り入れて、考えていきたいと思っております。その中では、ぜひこの有識者会議の場では、小林座長先導のもと、御嵩町にとって本当に何をやらなければいけないのかということをお学習してまいりたいと思っておりますので、どうぞ忌憚のないご意見

をお願いします。

なお、私は 11 時より次の予定、会議に参加しなければならないため、時間の許す限りご意見をお伺いしたいと思いますが、中座させていただきます。申し訳ありませんが、よろしくお願いいたします。

○山田課長

次に、資料を確認させていただきたいと思います。

=====

【資料の確認】

=====

よろしいでしょうか。

(各委員：過不足等なし)

では、会議の進め方についてですが、お手元の次第にしたがって進めさせていただきます。まず、議題 1 として、第 2 期みたけ創生!!総合戦略の策定に向けて、人口や産業動向の分析及び町民アンケート等を行いましたので、その結果について報告させていただき、その結果等を踏まえ、第 2 期みたけ創生!!総合戦略の方向性や基本目標について骨子案を示しますので、それについて皆様からのご意見をいただきたいと思っております。

次に、議題 2 として第 2 期みたけ創生!!総合戦略に関わる関連事業案について、事務局より示しますので、それについて皆様からご意見をいただきたいと思っております。何卒忌憚のないご意見をお願いいたします。

なお、本日は第 2 期総合戦略策定の支援をお願いしております一般社団法人地域問題研究所から、田辺さま、大山さまにご同席いただいておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、ここから先の議事進行は、小林座長をお願いしたいと思います。事業説明及び質問に対する回答については事務局または担当部署からさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

では小林座長様お願いいたします。

○小林座長

それでは、座長を務めさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

早速ですが、最初の議題の方に移らせていただきます。

まず議題 1 につきまして、事務局から報告をお願いします。

議題 1

第 2 期みたけ創生!!総合戦略に関する人口・産業動向分析及び「まちづくりについてのアンケート調査」結果概要について

○事務局（丹羽係長）

では私の方からご説明をさせていただきます。

=====

・「まちづくりについてのアンケート」の結果概要説明

・「人口・産業動向分析」の結果概要説明

=====

今、かいつまんでお話をさせていただきましたが、さらに分析というところで、一般社団法人地域問題研究所より、さらなる詳細の部分について報告をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○地域問題研究所 大山氏

では、説明させていただきます。

=====

人口・産業の分析について詳細説明

=====

以上、説明を終わります。

○地域問題研究所 田辺氏

それではアンケート調査結果について、報告をさせていただきます。

=====

アンケート調査の分析結果について詳細報告

=====

以上で説明を終わらせていただきます。

○事務局（丹羽係長）

今報告をいただいたものを踏まえて、現在の総合戦略の成果と課題ということで整理をしております。

=====

第1期総合戦略の成果と課題について報告

第2期総合戦略の方向性（理念）について説明

第2期総合戦略の基本目標について説明

=====

これで一旦のまとめとさせていただきます。長々と説明しましたが、私からの説明は以上です。

○小林座長

非常に盛りだくさんでしたが、いかがでしたでしょうか。次期のみたけ創生!!総合戦略を策定するというのが大きな目標となっていますので、お気づきの点についてもお聞きしたいのですが、キーワードになるようなところ、あるいはキャッチコピーのような、使えるかなと

というようなことがありましたら、思いついた部分で構いませんので一言お願いできればと思います。また、質問を含めてご自由をお願いします。

では私から少しよろしいでしょうか。人口動向の話ですが、御嵩町の人口動向は全国的なものとはあまり差がないという話があったかと思いますが、御嵩町は工業団地を抱えていますので、そうした工業団地の影響はありますか。工業団地というのは人口動向にどのような影響が出るものなのか、一般的なもので良いので教えていただきたいです。

○地域問題研究所

おそらく、移住定住の要素として、移動しやすい都市に比べたら、なかなか人が動かないというのはあると思います。

また、立地の関係で、大都市圏に近いと、地価が安くなるとすぐに名古屋に吸い出されてという話がありますが、このあたりはそこまで外に出ていくということがないと思われるので、そういう面では産業があるということで、そこにずっと暮らしていくという方が多くなっているのかなというのが見てとれるかと思いますが。関係性としては思いつくのはそのくらいで、もう少し分析してみないとわからないというのがあります。

例えば豊田市は人口が減っていて、豊田市の外に出て市内に通うという人が非常に増えています。例えば岡崎市や長久手市など。産業があるから定住するというわけではありませんが、岡崎市だと学校が良いとか、長久手市だと名古屋に近くて住みやすいとか、特徴がある都市が近くにあるとそちらに吸い出されるという例がかなりあると思いますが、ここに関しましては、おそらく魅力があって外に住むということが今はないので、そういう面では出ていかないということだと思います。ただ今後、他の都市が魅力ある居住をつくってきた場合には、そちらに出て行って通うということも十分あり得るかなと思います。

○小林座長

おそらくそれに関連すると思いますが、資料2の11ページのところで、年々流入者が増えていますので、まさにそういう関係があるのかなと思いますが、そういうことでよろしいでしょうか。

○地域問題研究所

反対に流入流出ともに減ってきている状況があり、あまり人が動かないという状況になってきているというのは、昔みたいに産業の関係で流動していくというのがこのあたりはちょっと少なくなっているのかなと思う。先程の高校生ヒアリングでも申し上げましたが、地元で就職する意識は強くなってきているというところがあり、20歳超えると出ていくような面もありますが、地元で暮らしたいという方は昔に比べると若干増えているのではないかと思います。

○小林座長

11ページの下の方を見ると流入の方だけは増えているというふうに見えますが。

○地域問題研究所

失礼しました。流入は増えていて、流出が減っています。

○小林座長

ありがとうございます。ほかによろしいでしょうか。あまりにも資料が膨大なので、どこからでも構いませんのでお願いします。

○重政委員

アンケートについて「住みやすさ」「自慢できるか」という項目がありますが、この下の深堀まではされていますか。要は何が自慢できるか、どういう点が住みやすいと思っているのかというところを、もう少し何らかの形で聞いていくと、そこがおそらくストロングポイントになってくるので、そこを強調した施策をとっていけば良いのかなと思います。

例えば、私は愛知県から来ていますので、のどかで山があって住むには良いところなので、そういう意味で住みやすいのか、自慢できるのかとか、観光も含めて、そこがわかるといういろいろなところに繋がってくるのではないかと思います。

○地域問題研究所

先程説明をとばしましたが、資料3の13ページと14ページに住みよさに関する設問を設けております。やはり自然の良さ、治安の良さというのが住みよさの指標としては高いです。このあたりは5年前の調査でも御嵩町の良さとして出ている部分であります。

また、施策にかなり関係しますが、交通手段や災害リスク、学校教育などは同じような感じ、評価としては平均的かなと思いますが、まちの活気やスポーツ施設、公園などの遊べる場というのがちょっと評価としては低いというところですね。弱い部分を補填する施策もあると思いますし、良い部分を強調する施策もありますので、政策判断について当方からはどう言えませんが、例えばこういう項目をヒントにしていくことはできるかと思います。

○小林座長

前回と比べて満足度が下がっている項目は具体的にはどのあたりですか。

○地域問題研究所

満足度に関しては資料3の19ページに記載しております。

例えば、ごみの減量・リサイクルの取り組みについては前回より5%下がっています。ですが、実際に御嵩町の場合は、前回のアンケート、環境基本計画や環境モデル都市での調査もそうですが、実際に住民のごみのことリサイクルに関しては一定程度レベルが高くなっているのかなと思っています。

幹線道路の整備についても満足度が下がっていますが、前はちょうど国道21号バイパスが建設直後でありましたが、できてから時間が経過したので評価が下がったのかなと思っています。

○小林座長

バイパスができてよくやったということだが、今になるともう当たり前になってしまったかなというところなのかなということですね。

○地域問題研究所

そういう感じかと思っています。

総合戦略の関連項目についてはまあ高くなっているの、私はむしろPRが結構行き届いているというように感じます。

○小林座長

今のお話で、環境に対する意識の高さというのは、御嵩町は高いというように感じます。一方で変化という部分で気になったのは、公共交通、スポーツ施設や遊ぶような場所、防災リスクというようなところは新庁舎ができることで上がる可能性はないでしょうか。

○事務局

公共交通に関しては、本年度、地域公共交通網形成計画という国交省からの補助事業で、全体の交通網の見直しをかけています。国の動向で、この計画は、総合戦略における位置づけは重要だということで示されていますので、今回の総合戦略の策定にあたってはこの計画は間に合わないものになっていますが、後日一部改訂ということで追記をしていく必要があるということで国土交通省中部運輸局からもアドバイスをいただいていますので、そこの関連性は非常に重要になってきます。

また、公園、遊ぶ場所が少ないというのは、全国的な傾向として、ボール遊びの禁止、花火の禁止など、生活スタイルが多様化している中で、日中に休みが必要な方がいらっしゃいます。そうした部分でお互いの生活スタイルの比重を守らなければいけないというところで、こういった部分が就業スタイル、生活スタイルの多様化が表面化していると考えています。

行政としても子供たちに遊んでもらいたいという思いはもちろんありますが、そうしたバランスの中で見ていかざるを得ないという社会現象のひとつかと思われまますので、非常に心苦しいところだと感じています。

○小林座長

確認ですが、バイパスの近くにできると聞いていますが、新庁舎ができるのはいつごろでしょうか。

○事務局

5年以内というところですよ。

○小林座長

では次のアンケートには間に合うかなというところですね。

○事務局

その時には建設が進んでいると思いますので、一緒にバランスをとりながら、計画もそうですがまちづくりという面でも大きな中心的な役割を担うというところで考えています。

○小林座長

例えば、防災コミュニティセンターを防災として使わないときには、体力づくりとして一般の方が使いやすい機会をつくっていただいているので、新庁舎にも公民館的な人が集まるようなスペースはあると思いますので、そうすると、人々が多様化した生活の中で過ごしやすいような空間になるかなと思います。

○事務局

それにつきましては、人が集える庁舎という基本構想がありますので、そういう案も今後町民の方にお尋ねをしながら進めていきたいと考えています。

○小林座長

ぜひこれとリンクさせていいアイデアをつくっていただきたいと思います。ほかによろしいですか。

○永谷委員

骨子の内容についてですが、今までの総合戦略の取り組みにおいても成果が出ているというのが、私自身も感じているし、アンケートにも表れていて、良い方向になっているという流れを感じています。

そこで次の総合戦略を策定していく上で、総合戦略の要は何なのかというところが、ちょっと見えてこないなという気がします。基本目標が4つ掲げられてはいますが、それを繋ぐような、1本太い、精神的な柱といいですか、そういう、一言で「御嵩町はこうですよ」というものがほしい。

例えば、御嵩町と交流のある北海道下川町の場合は、一言でいうと森林だとかバイオマスというところになると思います。そういう点では、御嵩町も、骨子の中には興味深さについてありますが、それが何かというのが自ら言えるような、テーマ、要になるものを掲げられるようになるべきであると感じました。

それから、内容を読んでいて良いなと思ったことが、コンパクトな地域形成についてです。良いなと思ったポイントは、人口減少が避けられないという中で、今までの考え方としては外から入れるというものだったかと思いますが、そうでなくて、より良く小さくなるという考え方があっても良いのではないかと思います。そういう観点がこの中に感じられて、これは面白いポイントになると思いました。

小さくなってくると足りないものも当然増えてくるとはありますが、御嵩町だけで考えないで、他の地域と連携して、ないものは外にアクセスしていく。御嵩町の特徴のひとつに、東西南北にアクセスしやすいというのがあってと思います。高速道路が走っていますし、鉄道も走っている、車だったらどこでもアクセスしやすい。宿場町という地の利を活かすという

ころも、御嵩の魅力のひとつになっていくのではないかと思います。

ともあれ、これが御嵩町です、というような要になるようなものが必要であると考えます。

○水内委員

今までのやりとり、情報をお伺いしている限り、総合戦略の要であったり、自然の多さが御嵩の良さではないかというところですが、私も「興味を惹く」というのを戦略の要において進めるのをどうすべきかと考えた時に、弱みを補填していくという方向と強みをさらに磨いていくという2方向あると思います。その中で何かを伝えるとか、興味を惹くというときには、何か飛び抜けたもの、話題を呼ぶものがあるということが、非常にフックになってくると思います。

例えば先程言及のあった岡崎市では、教育が良いといえばみなさん「そうですね」となります。岡崎でも実は他の産業なども頑張っているんですが、まず教育が入口になってまちを知ってもらってということに繋がっていったりして、長久手市でも子育てのまちだとわかりやすく出ているということを見ると、例えば御嵩の場合は、「自然の多さ・良さ」そういうものがひいては教育にも、子育てにも、産業にも紐づいていてというような、自然を活かした戦略づくりというの、大胆すぎるかもしれませんが、そこにフォーカスを置きながらすべての施策を展開していくことでメッセージ性を高める方法もあるのかなと思いました。

自然の良さというのは、今までだとのどかで良いという雰囲気だけだったかもしれませんが、近年の流れを見ているとSDGsもそうですが、自然が良いということがさまざまな分野に繋がっていく、そこはひとつ重要なポイントでもありますし、環境意識の高さが高まっているという中で時期としても悪くないと思いますし、自然環境といえば御嵩だという、単にのどかで良いというだけでなく次の戦略的な自然環境の良さというのを売りにできるとメッセージ性が高まるのではないかと思います。限定的な議論ではありますがそのように感じました。

○齊藤委員

資料1に中学生アンケートの調査結果について記載がありますが、先生たちにアンケート実施をお願いしておしまいでしょうか。

○事務局

配布して回収をさせていただいたという状況です。

○齊藤委員

アンケートが終わった後に、中学生たちから話を聴いて、御嵩町ってこんなものがあるといいよねというような話がありますか。

○事務局

いったん概況的な部分をとらえています。来年度総合計画の策定がありますので、そこで

ワークショップを行い煮詰めて、他の施策に広がるように、展開していくよう設計しているところです。現時点で集まったばかりですので、詳細の分析や動向を含めて対話というところには至っていません。

○齊藤委員

私は長久手市に住んでいますが、それなりに自然もあって、名古屋へのアクセスも良くて、子育てというところはあまり感じません。若者が多いのは大学があってということで、若者が増えているというのを、うまく地域と根ざしてタイアップしながら進めてきている、住民それぞれが、それぞれの役割の中で市町村を盛り上げていくというような、そういう流れにあります。

この骨子案を見ていると、住民それぞれが盛り上げていくというよりも、役所サイドで主導しているような感じがするので、もっと住民参加で、若い世代が自分たちのまちを自分たちで作っていきけるような、自分たちで提案したものが実現してそこに残っている、そうすると親になって戻ってきたときに、子どもに伝えられる、そういう自分たちで自分たちのまちを作っていくような何かがあると良いのかなと思います。それこそ自然環境の中でいろいろなものを作ったりというのが後に残っているというのがないと、いつか戻ってきたときにまちを見てもよいかないということになる気がするので、教育環境とももう少しいろいろなことをタイアップしながら進めていくのが、長期的には必要なのかなと思います。それには教育レベルの向上は間違いなく必要だと思います。

ただ、教育レベルといっても、御嵩町が何を求めているのか、どんな大人になってほしいのかをもう少し明確にしながら、そういうことも絡めていけると、教育環境の充実だけでなく、実際にどんな大人になってほしいかということ、その活躍の場を戦略の中で作っていくことが大切になってくると思うので、もっと踏み込んだところ、活躍できる場をつくってあげると、やる気にもなりますし自分たちで考えていくということが常態化していくと思うので、そういう視点を持ってやっていただければと思います。

○小林座長

齊藤委員の中で、住民参加してほしい若手の方というのはどのくらいの世代のイメージでいらっしゃいますか。

○齊藤委員

小学生には小学生の、中学生には中学生の、高校生には高校生の参加の仕方があると思いますので、それぞれがそれぞれの世代の中でなんでも良いですが何か参加をしたと誇れるような何かがあると良いと思っています。

○小林座長

私も高校生くらいまでを若手とイメージしていましたので、同じような感覚ですね。

○齊藤委員

実際に大学生とか働きに出てしまうと参加していくのは難しくなってくるので、学校教育の中でそういうことを活かしていればと考えます。

○小林座長

そうですね。

私の個人的な思いですが、魅力としては御嵩町は自然が多いということで、親御さんはいろんな考え方を持っていらっしゃるのでもわかりませんが、高校生までここで過ごして、それなりに満足いくような教育を受けて、でもどうしても20歳頃には大都市に行きたいというのは仕方ないと思います。そこである時期になったら、例えば工業団地に就職して戻ってくるというような、何らかでもう1回戻ってくるような、そんな環境をつくってあげるのが良いのかなと思っています。

もちろん直接工業団地などに就職するのも望ましいですが、鮎のようにいつかは戻ってくるという環境を、子どものうちにそういう雰囲気をつくって戻ってくるというのは良いまちづくりに繋がると思います。高齢化等は問題になってくるとは思いますが。

ほかには如何でしょうか。

○黒田委員

先程地域問題研究所さんから豊田市の話をお伺いしましたが、私ども東海化成工業は平成元年から工業団地でお世話になっていますが、親会社は小牧市にあり、その従業員が結婚して家を持つというときに、会社回りから入社年度によって小牧から犬山、鷺沼や多治見など、だんだん年代によって広がっています。その背景として、小牧の近辺だと予算の範囲だと50坪くらいしか建てられないのが、遠くへ行くと70坪、80坪と建てられるということで広がっていきましたが、あるときから事務局からも話がありましたが、ライフスタイルが変わってきて、「共働きなので、持ち家でなくてマンションやアパートで良い」「昼間いないので、できれば管理人さんがいて、荷物を預かってくれるところがあると最高だ」「持ち家だとメンテナンスが大変だがマンションだと何もなくても良い」などの理由で、逆に小牧の方へ戻ってくる例が増え、さらに名古屋に住んだりする例も増えてきています。それは、マンションの設備が名古屋方面に整っているところが多いこと、それから夫婦でも夫が小牧で妻が名古屋方面に勤めているような場合だとそちらの方が便利だということ、ライフスタイルの関係で車2台を置くには広い土地が必要だが、今は車が必要ないということで、だいぶ変わってきているのを実感します。

そのため、就職で御嵩に戻ってきて、住む所をどうするか、御嵩に腰を据えてくれるかというところなんです。データ上では、お勤めの終わった65歳以上の方は落ち着いてくれるが、働き盛りの方は、落ち着いてくれるかというと、御嵩よりも可児の方がなにかと便利だとか、そういう考えになってしまう可能性が高いように思います。

東海化成工業では、場所を選ぶ背景のひとつで、私の感覚では、工業団地内の7、8割はトヨタカレンダーを採用していて、祝日がない、祝日保育園が休みだと大変な場合が多いと思います。近くに祖父母がいれば楽だけど、いないとどちらかが休まなければいけないので、祝日あずかれる保育園をつくと結構住んでくれるような気がします。

特にママさんの情報網はすごいので、八百津の保育園は何時までだとか、みなさん情報をお持ちなので、御嵩の保育園が祝日もあずかれるということをPRできると来てくれるのではないかというのは思いつきの発想ですが、そういったところからも攻め口があるかなと感じます。

○事務局

今、御嵩保育園では人数は限られますが、休日保育を実施しています。

○齊藤委員

やってはいますが、子育て環境のことを申しますと、親が子育ての責任を持たずに保育所に預けっぱなしで子どもが育っていく状況を市町村がつくり出していくことが、この先の日本的な良さを維持していく上ではあまりふさわしくないと考えています。

確かに平日休みの方がいるというのもわかりますが、では平日休みのときに子どもを自分たちで見るとするのが大切で、全部預けっぱなしで子どもが育っていくとなるとそれはまずいと思うので、そのあたりの枠組みがしっかりあれば形作っていけるかなとは思いますが、それを売り出して御嵩町へ流入してくるとなると、保育園に7日間フルで預けっぱなしという方が増えてしまうと困ってしまう。そこはある程度枠組みを決めてほしいとは思いますが。

むしろそれなら、役所の制度として、地域の住民がサポーターのような形で預けられたりする人を登録してその人のところで見ってもらうというような形があれば、地域の良さ、地域のあたたかさが感じられるような施策がもう1本あっても良いと思います。家庭の良さをせっかくなので活かしてほしい、地域で預かれるよとおじいちゃん、おばあちゃんの手を挙げてみんなで見るよというような、昔の感じが作れるのではないかと思います。

○事務局（丹羽係長）

御嵩町で、地域の方で預かって下さるというサービス、制度はあるのですが、それを担っていただく人、非常に難しくうまく運用が回り切っていない部分もあります。

私の子どもが来年度小学校に上がるため、放課後児童クラブをどうするかという話がありますが、共働き世帯においては、最終的に迎えに行かなければいけない時間が1日の中でリミッターになってしまいます。そこで、父親が迎えに行くのか、母親が迎えに行くのか、時間を延長してそれをリミットにするのか、共働きかつ核家族の制限というのが特に都市部では明確化してきています。御嵩の場合は近くに祖父母がいるというパターンがそれなりにあるので、まだ他のところと比べると良いのかなとは思いますが、今後、家庭のあたたかみなどを感じる時間を担保していかなければならない、大事にしていかなければならないと感じ、これまで推進交付金事業の中で、読み聞かせの時間を人材をつくるだとか、紙芝居をつくって交流するような場所をつくるなど実施してはいますが、まだまだ2、3年の話で、これから長期スパンで人をつくっていくという難しさを感じています。

来年度の総合戦略、交付金事業においても人を育てる、成長してもらうというところの着眼点はかなり必要なところだと感じています。事務局としてもそうした点を主眼として、対

人というところでやっていきたいとは非常に強く思っているところです。

○小林座長

次のビジョンが5年という限られた期間ですので、コンプリート、完璧に終わらせるのは無理だと思いますので、種まきくらいはやるところでしょうか。

○事務局

種まきも含めて、人が入れ替わり立ち代わり広がっていくという「わ」をつくっていかなければなりませんので、総合戦略が目指すものとして興味深いと記載していますが、こうした人の「わ」をつくることで御嵩町内を充実させていく、そこから外へ出していくというような二段構えも必要かなと考えています。

○齊藤委員

例えば、IoTやAIなどを活用していくと、雇用創出については、若干雇用を減らしても回っていくようになってくると思います。そうすると、コンパクトシティになる手前までは人がいるかもしれませんが、実際にコンパクトになって雇用があまりいらなくなってくると人はまた余ってくる。そうなるまでにもう少し働き方改革として、子どもがいる家庭が、そこまで働かなくても子どもを育てていけるように、工業団地などとも協力しながら進めていくことは可能でしょうか。

○事務局

IoTそのものの理解度というところではありますが、現在の地方創生推進交付金事業で進めているIT人材育成事業は、今高校生以上の学生に特化している状況です。さらにそれを中学生へということで、1月16日に上之郷中学校の3年生を対象に、デモという形で、学校のカリキュラムの一部として先生の評価しやすい内容でプログラミングを実施し、IoTなどに携われる人材を育成していく、さらに高校、大学と上がっていったときに、就職する時にはそれが当たり前になっているという状況をつくっていきたいと思っています。IoT自体を工業団地や私たちの日常生活に入れていくというのは、まだまだ浸透性を深めていく必要があります。将来へ向かって、人口減少がうたわれている中ですので、AIなどに変わっていくものとして情報提供していきたいと考えています。

まず、学校教育という国が動いているところに便乗して、小学校にプログラミングが入ったばかりという今の状況で、さらに中学生とのなじみというところも連動性をもって考えていきたいと思います。

○齊藤委員

働き方として、子どもがいる家庭は何時までしか働かないこととしますとか、そういったところに交付金を出すというのは難しいですか。

○事務局

交付金は個人給付が原則禁止されているので難しいと思います。

○齊藤委員

いえ、企業側に出すというものはどうでしょうか。違う人を雇用したときなど。そういうことが可能なら、親が子を自分で育てることができるという部分も出せる。

○事務局

企業支援というところも含めてですね。

○齊藤委員

企業支援として企業に交付金を出すことで何かしら考えられると思うので、他市町村と差をつけるなにかがないと、差はつかないと思います。

○小林座長

行政としては、将来不確定なところを組み込むのは怖いかなとも思いますが、今の時代働き方改革など5年あれば大きく変わってくるので、少し先取りして入れても良いかなとも思いますが。

○事務局

今回の戦略が5年間ということもあります。だいたい交付金は3年が最低ベースになりますが、そのフレームに合わせられるかという点も含めて、すぐにお答えするのは難しいですが、そういった視野を含めて、別の事業として検討する価値は十分あると思いますので、国の要綱等もよく確認しながら検討できればと思います。

○小林座長

実際に工業団地の中をよくご存じの方にいろいろ情報をいただけると、より具体的なことが書けると思います。

○事務局

冒頭で総務部長が挨拶させていただきましたが、工業団地の社長様方とお話をさせていただきたいというところで、働く現場の皆さまと経営者の立場というところでお話をしていくべきだということを町長からも言われていますので、一緒になって動いていきたいと思っています。

○齊藤委員

行政が働き方改革として雇用を確保してとなっていくいろいろな人を預けたりということとはできますが、保育の立場からすると、働き方改革が進むおかげで逆にたくさん働かなければならないので、それは誰が責任を負ってくれるのかというのは常々思っているところです。企業側としては現状預けて終わりということになってしまう。

しかし、保育としてはそうはいかない、そこにいる人たちは常に出ずっぱりになってしまい、保育士さんにも家庭があり、その人の子どもが風邪をひいたりしても休めないという状況があります。そういった状況を企業側にも発信していく必要があるし、そういった部分を理解してほしいという思いもあります。

例えば、先生の立場からすると、親が責任持たずに預けて入ると、おむつも自分でとってほしいという思いがありますが、預けたらとってくれる、いつおむつがとれたかもわからないというような保護者が増えているという状況がふさわしいかというのをもう少し考えてもらいながら町としての方針を決めていただきたい、企業側にもそういう説明してもらいながらうまく着地点を探してほしいと思います。

○黒田委員

今、企業では、ダイバーシティの問題で、女性の比率を上げる、特に事務所の女性の比率を上げていくということを言われています。先程のトヨタカレンダーの件で祝日に休みを取らなければいけないという人は今でも数人で良いですが、これから女性の比率を増やしていくと、事務所の女性が祝日に休まなければということになるともう回っていかないということにもなります。

ワークライフバランスも大変ですが、企業の女性の採用を増やしていくと、そうなります。工業団地内はほとんど祝日は出勤になりますので、そのあたり、町としても工業団地の状況を調査していただければと思います。

○齊藤委員

国の制度としては、企業内保育所を立ち上げたのはその点にあって、基本は企業の中で保育所をやって、なんとか回していってくださいというのが念頭にある、そういう制度を少なくとも名目上はつくっているのですべてが保育所にとということではなく自分たちも努力をしながらという形になっています。

しかしそこが逃げ道になっているという部分もありますが、保育所としても常に葛藤があって、働かなければいけないこともわかるし、預かるのも必要だと思っはいますが、働かなくてもなんとかなるような、そういうシステム設計をどこかでしてほしい、そこが一番大きいと思っはいて、そこができるのが市町村の仕組みだと思っはいます。

○水内委員

ちょっと話が戻ってしまいますが、先程齊藤委員から第2期総合戦略の中に行政中心になっている、住民主体の活動を促すような色が少ないというところは確かにそうだと気がなつたところでは。

今の多様な生き方が求められる社会において、それを支える人も多様であるべきであつて、先程の保育の話も保育所か事業所の二者択一でなく例えば地域などという視点があつても良いし、多様なことをやろうとすると行政だけだと難しいと思っはるので、地域に主体となるような人たちの活動が活発になっていくということが、第2期総合戦略の中で支援していければ良いと思っはいます。

具体的に考えるといろいろなレベルがあると思います。私が御嵩町と関わっている中で、地域の繋がりを感じる部分もありますし、ほかの市町村と比較すると、副業活動などはそんなに盛んではないのかなと感じるような場面もあります。実際にある程度のプレーヤーが育っていて、プレーヤー同士を繋げていくことで地方創生が進んでいくというものなのか、まだまだプレーヤーが育っていなくて、プレーヤーを育てるような枠組みを示してあげるのが重要な段階なのか、いろいろなレベルがあると思いますが、そのあたりは町としてはどのように認識されていますか。

○事務局

町として、これまで人材育成を主眼に置いて交付金事業や具体的な施策を実施してきましたが、正直に申しまして、公的な支援を外してしまうと人は逃げてしまうというような状況にあります。これまで御嵩あかでんランドや宿場まちの人材育成など展開しておりますが、やはり特定の方、興味があるという方はみえます。

しかし、そこからさらに外へというところに行きついていないというのが現状です。なので、人材育成そのものとしては個々には育っているところはあるのですが、そこに対する興味関心や外に対する発信は、そこで留まってしまっているというのが現状ですので、公的な支援として方策は議論させていただいているような状況ですので、人が育ちきったという認識はまだありません。これからもっと人材育成に努めていかないと、御嵩町は普通の地方公共団体のままとってしまうので、その点については第1期の総合戦略の時点では満足できていない状況です。第2期の状態でも満足できるかということも含めて、具体的な施策を実施していきたいと考えているところです。

○小林座長

議論が進んでいますが、そろそろ次の議題に進んでもよろしいでしょうか。それでは、議題2について、事務局より説明をお願いします。

議題2

第2期みたけ創生!!総合戦略に関わる関係事業案について

○事務局（丹羽係長）

では私の方からご説明をさせていただきます。

=====

・関係事業案及びKPI検討案について資料5を用いて説明

=====

簡単ではありますが、今後の事業の展開とKPIの新しい案について、全体をご覧いただき、ご意見をいただきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

○小林座長

次期の総合戦略において適切な事業かというのを委員の皆さんからお聞かせいただければと思います。視点としては、全体として連携している事業、持続的に発展していけるような事業、あるいは御嵩町独自、環境の御嵩といった視点から、ふさわしいような事業、あるいはこれはふさわしくない等ありましたらご発言をお願いします。

○水内委員

第1期の総合戦略の振り返りにおいて委員の方々がよく話をされていたのが、それぞれの事業が単独で動いているのではなく、それぞれの事業が相乗的に効果を出しているところが評価のポイントとして議論されていたかと思います。

形式上は分けていかなければいけないとは思いますが、それぞれの施策の相乗的な効果、一体的な効果が期待できるところについてKPIへの効果もより出やすいのではないかと思います。

○小林座長

イメージとしては、ポンチ絵のような、それぞれの事業の関係図、リンクを貼るようなものが必要であるということですか。

○水内委員

施策ごとの繋がりによって、相乗的に働くと良いし、そういうことが語られていた記憶があります。

○永谷委員

水内委員のお話を農家的な話としてさせていただくと、そこを繋ぐものが食と農であるというのが農家としての主張です。

SDGsにおいても、食というのはあらゆる分野に繋がります。教育という面でも、食育をやっていくというのもひとつだと思いますが、例えば子育て世代に限らず小中高、大人も含めて、そういった人たちに経験してもらうことで、バラバラなものを繋げられるものになると思います。

また最近農というのがクローズアップされていますが、私が考える農というのは、ただ農業をしてお金を稼ぐというビジネスの部分でなく、農業の業をとった根幹の部分、暮らしの知恵です。野菜・米を育てて収穫して食べるというのはもちろんですが、それに関わる、どう調理して食べるか、どう食卓を囲むのか、コミュニケーションを含めて幅広い効果が得られると思っています。

また先程齊藤委員がおっしゃいましたが、役割という言葉が最近とても大事だと思っています、その役割を担うわかりやすいものが、農的なものだと思っています。先日農業体験施設でさつまいもの収穫体験をイベントとして担当し実施させていただきましたが、子どもたちは放っておいても自分たちで役割を見つけて働いてくれ、子供たちから言って、やってくれます。役割をつくりやすいというのがあるんだと思います。そういった農的な部分をいろいろな分野が持っていると思います。そういったところを繋いでみると、相乗的な効果が得や

すいのだと思います。

例えば舳五山茶もそうです。農的な部分、デザイン、ビジネス、教育、産業と全部繋がっています。そういったところの鍵になるのが農的なものになると思います。それが子供たちに根付いて来れば、そちらへの関心をもっと向くと思います。

アンケート結果と分析結果を見て愕然としたのが、農業従事者が、割合が本当に少ない、思ったより少ないと思いました。やはり食と農への関心が薄いのかな、それはどういうことかということ、アプローチする手段があるのに気づいていない、手を伸ばせばそこにあるのに、そこに行けていないということだだと思います。もっと自分たちの内にあるものだというのを利用して、いろいろな分野にも活かしていくということが必要だと思います。

また昨日、ある議員さんと話をしている、最近自閉傾向・発達障がいのある傾向にある子どもが非常に増えているという話が出て、そういったものにも食育に関わってくると思います。食べ物が原因でそういう傾向が出るという研究が進んでいるようで、そういった面で親への教育をして、食環境が変われば自閉傾向だけでなく健康面も改善、医療費も遮られるとか、いろいろな繋がりを見出すことができると思います。

もう一回そこを見直してみて、4つの基本目標がありますが、もう1本農的な部分があればと思います。農家的にひいき目に見ているかもしれませんが。

○小林座長

切り口が変わると繋がりがはっきりしてくるかもしれません。そうすると、やらなければいけないことがはっきりすると思います。

他にいかがでしょうか。

○齊藤委員

基本目標3中多様な保育サービスの充実とありますが、具体的に多様というのはどういうことでしょうか。

○事務局

今月下旬に庁内各部署へのヒアリングを実施予定で、その中で各部署との折衝をしたうえで内容を固めていこうというところです。現在の資料は企画課サイドの思いで記載している部分がありますので、具体的にというところとはすれ違いがあるかもしれませんが、ヒアリングをしたうえで、次回こういった状況でしたと報告できるようにします。

○齊藤委員

緊急一時的に利用できるサービスというと日曜日や病児保育とか、そういうイメージだと思いますが、現実的に子どもがいないのに職員を配置することはなかなか難しいしそこに予算はつかない。それだとどこも受けないのでなかなか厳しいのではないかと思います。それであれば、役場で、例えば新庁舎の中でそういう部署をつくってそこで担当するとかでないとなかなか受け手がいないのではと感じているので、そういう施設に投げるのは難しいと感じています。

保育資格、保育の担い手の確保と育成も正直どこまでやれるかというのが少し思います。ほかにもいっぱい支援策を出している中で、東京方面だと10数万という家賃補助が出ているような中で、とりあえず東京に行って何年か勤めると、そこでお金を貯めて永住してしまうという部分もあるので、そこと勝負するのはなかなか厳しいのではないかと思います。

○小林座長

事務局から今回の話が少し出ましたが、次回報告の際には決定事項となるのか、それともそこから議論をしていくのかはどちらですか。

○事務局

総合戦略自体が具体的な施策として全部を打ち出すものではありません。ある程度パッケージとして目標を掲げていくものになりますので、さらにそれを実行する時には、例えば交付金の実施計画や実行計画にはっきり謳っておかなければなりません。その時点ではもっとはっきりしたものが出てきますので、具体的なものはまた別になりますが、ヒアリングにおける折衝の結果として報告することはできていると思っています。

○齊藤委員

保育サービスのサービスという文言がいつも気になっているので、違う言葉があればお願いしたいと思います。こちらはサービスで提供している訳ではないし、サービスが良ければ子どもを育てなくて良いということではないので、サービス以外の文言があれば考えていただきたいです。

サービスというと提供しなければいけないという思いがあり、市町村の義務としてはそうかもしれませんが、イメージとしてなんでもサービスと言われるとちょっと違うと思いますので、ご検討をお願いしたいです。

○小林座長

現場の声をできるだけ反映したほうが良いと思いますので、よろしく申し上げます。次回につきましてはいつ頃を予定されていますでしょうか。

○事務局

内閣府から11月に骨子案が出る見込みであること、12月下旬に正式に第2期総合戦略が発表される見込みであることを考慮すると、年内に第2期みたく創生!!総合戦略の策定が終わらない可能性が出てきました。国のスキームだと、3月の時点で、地方版総合戦略の策定を完了することとなっていますが、実際に総合戦略に基づいた交付金を狙いに行くとすると、1月下旬には申請書を出さないといけない状況ですので、1月の下旬、若しくは中旬までには会議を開かなければいけないと考えています。国の動向を探っている状況ですので、現状の予定ではございますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○小林座長

確定はしていないが、腹積もりはしておいてほしいというところですね。

○事務局

はい。1月の時点では全体像として固めておかないと、来年度以降実行ができないという状況に陥っていますので、ご理解いただきたいと思います。

○小林座長

ほかにご意見あるかと思いますが、時間もありますのでこのあたりでよろしいでしょうか。

=====

各委員異議なし

=====

では本日の議題を終了させていただき、事務局にお返しいたします。

○山田課長

ありがとうございました。最後閉会といたしまして、企画調整担当参事の長屋よりご挨拶申し上げます。

○長屋参事

本日はお忙しい中お越しいただき、ご意見をいただきありがとうございました。各分野から貴重なご意見をいただけたと思います。お話を伺ってしまして、本当に今、大きな転換期に来ていると思っております。戦後にできた社会の制度、産業の構造などが、まさに大きな転換期を迎えていることを感じております。社会や経済の動きに、人間も含めて、環境が合わせてきたというのが近代、現代の流れだと思っておりますが、これからはそのまま良いのかどうか、持続できるのかというところが課題として突きつけられている中で、働き方改革などを含めて今後大きく見直されていくのかなとみております。これから検討していく中でもう少しハッシュタグとなるようなもの、特徴的なものがあると良いといったご議論をいただきましたので、そういう点をしっかり検討して反映していきたいと思っています。今後とも引き続きご協力をよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

○山田課長

それではこれをもちまして、第9回みたけ創生有識者会議を閉会します。ありがとうございました。